

「風力発電設備の動的解析と構造設計小委員会」の委員公募のお知らせ

構造工学委員会では、「風力発電設備の動的解析と構造設計小委員会」の新規設置にあたり委員を公募します。小委員会の趣旨、活動内容および応募方法は下記のとおりです。

記

1. 小委員会名

小委員会名：風力発電設備の動的解析と構造設計小委員会

提案者代表：石原 孟（東京大学大学院工学系研究科総合研究機構）

2. 研究課題・趣旨

平成 16 年 9 月に「風力発電設備耐風設計小委員会」を発足し、本年 10 月に暴風時・地震時における風車タワー・基礎に作用する荷重と支持物の構造強度に関する算定手法を定めた「風力発電設備支持物構造設計指針・同解説」を刊行することとなった。前小委員会発足後 3 年が経過し、風力発電設備の耐風・耐震安全性に対する社会的な認知が深まり、わが国特有の自然環境条件に適した日本型風車の開発や洋上風力発電導入に関する機運も高まりつつある。また今年 6 月 20 日の建築基準法の改正に伴い、風力発電設備支持物が該当する工作物の確認申請の手続きが変更され、高さが 60m を超える風力発電設備は支持構造の安全性を確認するために指定性能評価機関による評価と大臣認定を受けることが必要となった。更に風車発電時のロータ回転に起因する変動荷重は、風力発電設備に大きな繰り返し荷重をもたらすため、疲労荷重が支持構造物の安全性に及ぼす影響を評価するニーズが高まってきた。以上の状況を鑑み、風力発電設備の動的解析と構造設計の高度化を行うための小委員会を設置することとした。

3. 活動内容

本小委員会は、台風と地震の作用を強く受ける地域に適した風力発電設備のあり方及びその構造設計方法を検討すると共に、風力発電設備の動的解析、風力発電設備の運転に伴う疲労荷重の評価及び風力発電設備のタワーと基礎の疲労強度の算定式の提案、洋上風力発電に向けた新しい支持構造の設計方法の検討等を行う予定である。研究成果は、報告書にまとめ、講習会を開くなど、広く公開する予定である。

4. 設置期間

2007 年 11 月から 2009 年 11 月までの 2 年間とし、3 か月に 1 回程度の開催とする。旅費等の活動費の支給は行わない。

5. 募集人数

10 名程度（特に風力発電設備支持物構造設計に関心を持つ鋼構造、コンクリート構造、基礎構造関係の研究者と設計者を歓迎）

6. 応募方法

本委員会に応募される方は、(1)氏名、年齢、所属、連絡先住所、電話番号、FAX 番号、E-mail アドレス、(2)応募理由、本委員会で取り組みたい内容のキーワード（100 語程度）、10 月 31 日まで下記申込先にお送りください。

なお、委員の選任にあたっては、委員会の運営上、応募理由、提案内容および委員構成割合を考慮させていただき、応募者多数の場合にはご参加いただけないこともありますので、あらかじめご了承ください。

申込先：東京大学大学院工学系研究科総合研究機構 石原 孟

〒113-8656 東京都文京区弥生 2-11-16

E-mail : ishihara@bridge.t.u-tokyo.ac.jp